

平成19年度環境技術実証モデル事業検討会

第1回 ワーキンググループ会合 議事要旨

- 1 日時 平成19年4月5日(木)14:00～17:00
- 2 場所 ニュー新橋ビル B2F ニュー新ホール
- 3 議題 (1)平成19年度 実証機関の選定について(非公開)
(2)平成19年度 ワーキンググループの検討内容とスケジュールについて
(3)その他
- 4 出席検討員 相野谷誠志、小川武、桜井敏郎、鈴木富雄、
森武昭(座長)、吉田孝男、渡辺孝雄
- 5 配布資料 資料1～5 実証機関応募資料(非公開)
資料6 平成19年度ワーキンググループの検討内容とスケジュール(案)
- 6 議事 議題(1)は、非公開で行われた。

(1)平成19年度 実証機関の選定について
会議は非公開で行われた。

(社)沖縄県環境整備協会について
(議事内容については非公開)

(NPO)グラウンドワーク三島について
(議事内容については非公開)

秩父市について
(議事内容については非公開)

(財)日本環境衛生センターについて
(議事内容については非公開)

(財)日本環境整備教育センターについて
(議事内容については非公開)

(NPO)山のECHOについて
(議事内容については非公開)

- ・ 以上の6団体を平成19年度の実証機関として選定することが確認された。

(2)平成19年度 ワーキンググループの検討内容とスケジュールについて

- ・ 事務局より、資料6に基づいて説明を行った。
- ・ 検討員より、平成20年度からの事業実施体制について、環境省総合政策局と調整する必要があることの指摘があった。これに対し環境省より、概算要求が8月のため、同時期に検討可能性があることが報告された。また、親検討会においても、同議題について課題となっていることが報告された。
- ・ 検討員より、山岳トイレ技術分野においては、対象技術保有会社の規模が小さいため、経費の問題からも、政策と関連付けて検討することが継続性を持たせるうえ望ましいとの意見があった。
- ・ 検討員より、処理方式名については今後の検討課題であるとの指摘があった。また、設置者にとっての選択肢として有効となるような処理方式の名称であることが望まれるとの指摘があり、今年度のWGにおいて分類名称を再検討することが確認された。
- ・ 検討員より、長野県では、設置条件ごとに処理方式の類型化ができているとの報告があった。
- ・ 検討員より、処理方式名称について、技術的見地とユーザー見地の双方からの視点を検討する必要があるとの指摘があり、ユーザーの意向を取り込めるよう対応することが確認された。
- ・ 検討員より、試験結果報告書に専門的視点から危惧される点など明記し、利用者が留意点として受け取れるようにすることが望ましいとの意見が出され、対応することが確認された。
- ・ 環境省より、技術の適用範囲を示すことが重要であるとの意見が出され、今後の検討課題とすることが確認された。

上記の意見をもとに、19年度の検討内容とスケジュールについて事務局にて再構成し進行していくこととする。

(3)その他

拡大WGについて事務局から説明を行った

- ・ 検討員より、一方通行のレクチャー方式ではなく、参加者全員でフリーディスカッションできるようなスタイルとすることが必要であると指摘され、参加者の意見を把握することを重視したスタイルで実施することが確認された。
- ・ 検討員より、ユーザー視点を主とし、本事業に対して、申請側及び設置者のニーズからの改善提案が行われることが望ましいとの意見が出された。これに対し、関係者のニーズや提案を把握する方法を検討することが確認された。
- ・ 検討員より、トイレ利用者、山小屋、地方公共団体、申請者など、各関係主体の参加がされることが望ましいとの意見がだされた。これに対し、多くの方が参加しやすいよう開催時期等、配慮して計画をたてることが確認された。
- ・ 検討員より、山岳トイレ技術全体として、マーケットの大きさを把握できることが望ましいとの意見が出

された。

- ・ 検討員より、山岳トイレ技術の適応エリアを拡大していく場合の課題の有無や内容について、把握しておくことが望ましいとの意見が出された。
- ・ 検討員より、非放流技術の場合、循環水質の濃縮により高数値になることが考えら得るため、今後、水質の基準を整理することが望ましいとの意見が出された。
- ・ 実証機関応募者より、実証済みの装置を他の地域に導入することを検討する場合、前提条件が異なるため、試験結果の適用範囲や取り扱い方法について、わかりやすく表現するための方法を検討することが望ましいとの意見があった。これに対し、前議題で指摘のあった留意点や適用範囲等とあわせて検討することが確認された。

上記の意見をもとに事務局で修正案を作成し、第2回WGにて検討を行うこととする。